

大藩を治める大大名家に

episode 04 関ヶ原に向けた幽斎の判断力

豊臣秀吉が病没後、徳川家康と石田三成が対立。決戦が迫ると細川幽斎は懇意にしていた徳川家康につきまします。結果、関ヶ原の戦功により、細川家は豊前小倉藩30万石(表高)へと大幅加増され、さらにその後、熊本藩54万石に移封加増。大大名として幕末まで藩を守り抜いていきます。



徳川家康 石田三成

光秀の頼みを断って出家

episode 03 本能寺の変後の幽斎の決断力

本能寺の変後、姻戚関係で盟友だった明智光秀の再三の協力要請を断り、剃髪して幽斎と名乗ります。さらに田辺城に隠居し、家督を嫡男の細川忠興に譲って、光秀の娘であるガラシャを幽閉。窮地に陥った光秀は羽柴(豊臣)秀吉と戦い敗死。その後、細川家は秀吉に重用されます。



豊臣秀吉 明智光秀

天皇が助けたかった才能

episode 05 幽斎の唯一無二の知力

関ヶ原の戦いに際し、細川忠興が出兵した後、西軍約1万5千人の大軍に囲まれた田辺城。残された約5百人の城兵は圧倒的不利な中、細川幽斎のもと約1か月半籠城します。その援軍の見込みもない危機を救ったのが、後陽成天皇でした。



後陽成天皇

歌道の奥義を伝える「古今伝授」の唯一の伝承者だった細川幽斎。その相伝の廃絶を憂慮した後陽成天皇は、両軍に講和の勅命を出し、開城へと導きました。



↑大軍に包囲された田辺城、幽斎の弟子の一人だった八条宮智仁親王は2度にわたり講和を働きかけたが、細川幽斎はこれを謝絶した。(田辺籠城図/大泉寺所蔵) ←幽斎のもと籠城戦が行われた田辺城(京都府舞鶴市)

幽斎、忠興、忠利。細川三代が残した足跡

田辺城の戦いで、まさに「芸は身を助く」を体現した細川幽斎。近世歌学を大成させた当代きっての文化人であり、茶道では利休と兄弟弟子でした。その素養は子の忠興に受け継がれ、茶人大名として上野焼を興すことにもつながっています。基盤となる関係を作り上げた幽斎、戦国大名の地位を確立した忠興、そして近世大名家として組織的な国づくりを整えた忠利。幽斎から続く三代による細川家の足跡は、この地に今も深く残されています。



北九州市立自然史・歴史博物館名誉館員 永尾 正剛さん

細川忠利

画像 | 足利義輝、足利義昭(東京大学史料編纂所所蔵) / 織田信長(長興寺所蔵) / 細川忠興、明智光秀、豊臣秀吉、石田三成、徳川家康、後陽成天皇(東京大学史料編纂所所蔵模写)

当代随一の武家文化人

文武両道

細川幽斎を物語るエピソード

戦国の世を抜群の才能で生き抜いた細川幽斎。その質実剛健かつ伝統文化を重んじる家風は、忠興の「上野焼」の創始にもつながっています。ここで劇的な生涯の「その時」を振り返ります。



細川幽斎

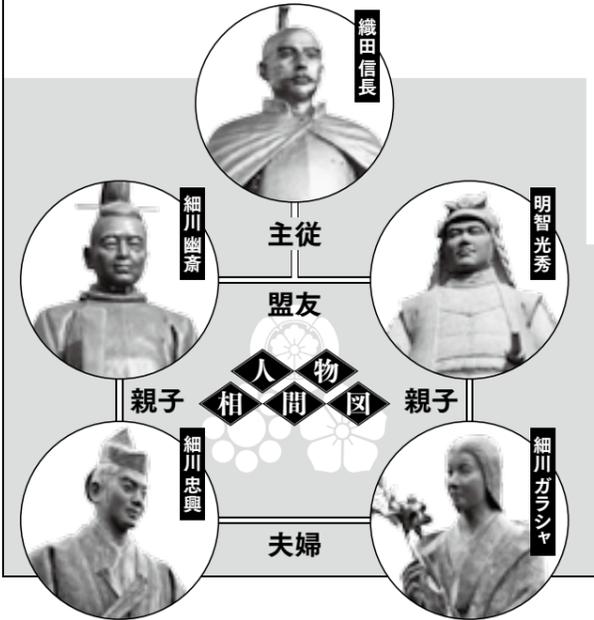
天下人三人に仕える

episode 02 幽斎の高い先見力

足利義昭を将軍にするため、明智光秀を通じて織田信長を頼った細川幽斎。足利義昭を奉じた織田信長の上洛に従い各地で転戦します。やがて足利義昭と織田信長が対立すると、信長に仕える道を選びました。のちに織田信長の仲介によって、嫡男・細川忠興と明智光秀の娘・玉(ガラシャ)が結婚。その後、細川幽斎は卓越した将来を見通す力で、豊臣秀吉、徳川家康と三人の天下人に仕えていきます。



織田信長



次期将軍を救出して奔走

episode 01 あきらめない幽斎の突破力

幕臣として室町幕府14代将軍・足利義輝に仕えていた細川幽斎。しかし、将軍・義輝は突然家臣から討たれてしまいます(永禄の変)。細川幽斎は、義輝の弟(足利義昭)をすぐさま幽閉先から救出。義昭を将軍にするため、油も買えないほど貧困する中、諸国の大名を頼って奔走しました。



足利義昭

足利義輝

5人の子に恵まれた細川忠興とガラシャ。細川ガラシャは関ヶ原の戦いに際して石田三成方からの人質の強要を拒み、壮絶な死を遂げる。のちに豊前小倉藩主となった細川忠興は小倉城を本格築城。上野焼を創始した。

利休七哲の大名茶人・細川忠興(三斎)

